

第2回 VICS プローブ懇談会 議事概要

1. 開催日時・場所

日 時；平成17年9月8日(木) 10:00～

場 所；航空会館 701、702会議室

2. 出席者

桑原(座長)、赤羽、水井、森川、秋山、高田、今井、黒瀬、黒崎、浮穴、岩越、中村、岩貞、清水、時津、瀬戸、辻、藤井、小林(代)、佐々木、森、長谷川(敬称略、順不同)

代理出席の委員は(代)と標記

3. 議事概要

- ・ V I C S 情報がすでに提供されているエリアについても、更なる情報精度の向上が必要。
- ・ プローブで旅行速度を直接計測することは、情報提供の質的向上の面で非常に大きな前進。
- ・ 安全に関わる情報提供は利用者のニーズも高く、投資への理解が深まる。
- ・ 少ない車両でも、プローブ情報はある程度収集可能。車載器が一般に普及すれば、相当な道路交通情報が収集出来る。
- ・ 車載器の普及やインフラ整備に当たっては、プローブ情報収集可能エリアの予測や、情報の更新頻度との関係を見据えて議論すべき。
- ・ リアルタイムでなくとも、過去短期間に蓄積したプローブ情報は旅行時間等の短期予測にきわめて有効。
- ・ まずは、既存のメディアの有効利用を検討することが現実的である。その上で、情報提供の更なる充実のためには、新たなメディアの活用・連携が重要。特に、通信容量の観点から既存メディアである FM 多重では無理があり、地上デジタル放送の活用が必要。
- ・ 個人情報を含むプローブ情報の取扱いについては、ユーザーに対して事前説明が必要。
- ・ 収集した情報については、他の方式によるプローブ情報や既存の情報も含め、官民の連携・流通が必要であり、そのため情報の編集・処理が重要である。
- ・ アップリンクする情報の内容については、センター機能を踏まえ検討すべき。
- ・ 8000万台の自動車がネットワークで繋がる事によるコミュニケーションツール拡大の意味は大変大きい。
- ・ 5.8GHz DSRCによる情報収集・提供サービスへの移行は、普及のためにも、短期間で全国整備を完了して欲しい。また、現行の電波ビーコン(2.4GHz)については、5.8GHzへの移行後においても、10年程度は路側機を存続し、情報提供サービスを継続して欲しい。

- ・ プローブ車載器の普及を図るには、プローブ情報を提供するドライバーに対するインセンティブを検討する事が必要。
- ・ 情報提供の内容として、VICSを渋滞のみではなく、防災、環境、安全の観点からも検討すべき。
- ・ 積雪の路面状況など、静止画像での情報提供は、ドライバーに対する安全運転支援に有効。プローブ機能の追加だけで新しい車載器が普及するものではなく、その他の多様なサービスも一緒にアピールしていく事が重要。
- ・ プローブの規格・仕様、VICSサービス展開の方向性について次回までに検討すること。

以上